

# 宝永噴火

—噴火絵図と山肌に刻まれた痕跡から導かれる新たな噴火像

1707年、富士山の噴火史上、最大規模の爆発的噴火となった「宝永噴火」

噴火史料の精緻な記録と山肌に残る痕跡から宝永噴火の“知られざる事実”に迫る

最新知見が解き明かす新たな噴火像を紹介する



関連イベント

## 公開講座（事前予約制・定員40名）

場所：静岡県富士山世界遺産センター 1階研修室

7月19日（日）14:00～15:30

「宝永火口・宝永山の形成過程に関する新知見」

講師：小山真人（静岡大学名誉教授）

8月16日（日）14:00～15:30

「地中レーダー探査・発掘調査から明らかにされつつある江戸時代の須走のまち」

講師：杉山浩平（東京大学総合文化研究科 特任研究員）

## 展示解説（担当研究員が解説します）

場所：静岡県富士山世界遺産センター 2階企画展示室

7月11日（土）・25日（土）、8月9日（日）・15日（土）・29日（土）、9月13日（日）

①10時30分、②14時00分（各回30分程度）

2026（令和8）年

7/11 [土] → 9/13 [日]

会場 | 静岡県富士山世界遺産センター 2階 企画展示室 | 開館時間 | 〈7月・8月〉9:00～18:00 〈9月〉9:00～17:00（最終入館は閉館30分前） | 休館日 | 7月21日（火）、8月18日（火）

観覧料 | 一般500円、団体400円（有料観覧者20名以上）、大学生以下・70歳以上・障害者等無料（証明書をご提示下さい） ※本企画展は常設展観覧料でご覧いただけます。

【主催】



静岡県富士山世界遺産センター

本企画展は、山梨県富士山科学研究所、裾野市、小山市、富士宮市などのご協力を受けて開催しております。また、公益財団法人はごろも教育研究奨励会より助成をいただいております。

富士山における最新かつ最大規模の爆発的噴火、1707年の「宝永噴火」。

これまで数多くの史料と多角的な科学的研究によってその姿は語り継がれ、ひとつの噴火像として広く定着してきました。しかし、三百余年を経た今もなお、その実態が解明されたわけではありません。

本企画展では、改めて当時の資料を精査し、そこから得られた手がかりをもとに、宝永噴火でできた地形や地層を再調査しました。丹念な分析によって浮かび上がってきたのは、これまで十分に注目されてこなかった“知られざる事実”です。

これらの事実最新の科学的検討を加えることで見えてきた、従来のイメージを刷新する「宝永噴火の新たな噴火像」を、最新知見とともに紹介します。

## はじめに

# 富士山の噴火史における宝永噴火の位置付け

富士山の噴火史上、最大規模の爆発的噴火であった宝永噴火は、わずか2週間という短期間に大量の火砕物を噴出した。麓で見られる大量の火山礫(軽石・スコリア等)を堆積させるとともに、現在の首都圏まで広範囲に及んだ降灰は、当時の人々の生活に甚大な影響を与えた。この噴火は、現代の富士山噴火災害を検討する上でも、極めて重要なモデルケースとなっている。



「富士山噴火絵図」【土屋家所蔵(沼津市)】  
(左上:昼乃景気、右下:夜乃景気)



## 1 記録され、語り継がれてきた噴火

激しく噴き上がる火砕物や噴煙、そして刻々と移り変わる噴火の様相は、各地に遺された絵図や文書から読み解くことができる。特に富士山麓の資料には、爆発的噴火によって変貌していく山の姿が克明に記されている。その中には、これまで見過ごされてきた“噴火の始まり”を記録した貴重な史料も含まれている。



「富士山宝永噴火之絵図」【滝口家所蔵(御殿場市)】

## 2 先行して発生した「噴火」の証拠

富士山東斜面の丹念な調査により、本格的な爆発的噴火に先立って発生した噴火の痕跡—“真っ黒に焼けた火山灰”を発見した。炭化した木片や赤く焼けた火山灰を含むこの堆積物は、宝永火口の方角から流れ下った分布を示している。検証の結果、噴火初期に発生した黒雲の正体は「火砕流」であったことが裏付けられた。



富士山東斜面での地質調査の様子

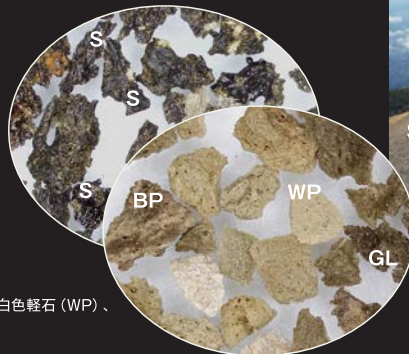


白色軽石の下にある  
真っ黒な火山灰が  
火砕流の地層

同地点で採取した地層剥ぎ取り資料

## 3 最新研究が明かす宝永噴火の新しい噴火像

宝永噴火とは、一体どのような噴火だったのだろうか。火山灰粒子をミクロの視点で分析することで、地下からのマグマ供給システムの一部が浮き彫りになる。また、宝永山の地形地質や、火砕物に埋もれた須走のまちを新たな視点で見つめ直すことで、噴火による山容の変化と、そこに生きる人々の営みが鮮明に浮かび上がってくる。



“真っ黒な火山灰”を構成する様々な粒子  
(左から角張ったスコリア(S)、縞状軽石(BP)、白色軽石(WP)、  
光沢ガラス(GL):径1~2mm)  
[馬場章提供]



宝永山の山頂「赤岩」の断面  
風化した褐色火山灰層(BA)が  
黒色スコリア(S)層に上下を挟まれて  
分布する  
[小山真人撮影]



須走地区での調査で発掘された急須  
[小山町蔵]



## 静岡県富士山世界遺産センター

[アクセス] 新幹線/新富士駅(富士山口)から路線バスまたはタクシー約40分  
電車/JR身延線富士宮駅から徒歩8分  
お車/新東名高速道路新富士ICから約10分・東名高速道路富士ICから約15分  
※当センターには来館者用駐車場はありません。  
(近隣の富士宮市神田川観光駐車場(有料)をご利用ください。)

〒418-0067 静岡県富士宮市宮町5-12  
TEL 0544-21-3776 FAX 0544-23-6800  
WEB <https://mtfuji-whc.jp>



撮影:平井広行

